2026 年 11 月 7 日

各　位

情報コミュニケーション学会　会長　寺尾　敦
教育システム情報学会関西支部　支部長　河野　稔
日本情報科教育学会近畿・北陸支部　支部長　武村　泰宏
兵庫県高等学校教育研究会情報部会　会長　米谷　繁
（兵庫県立姫路商業高等学校長）
大阪府高等学校情報教育研究会　会長　川口　　賢志
（大阪府立北摂つばさ高等学校長）
情報教育学研究会(IEC)　代表幹事　西野　和典　・江見　圭司
氷上情報教育研究会　会長　堀　博文
（丹波市立崇広小学校長）
NPO 法人学習開発研究所　代表　高橋　参吉
京都府私立中学高等学校情報科研究会　委員長　長谷川　卓也
（京都橘中学校・高等学校）
京都市立高等学校教育研究会情報部会　会長　山本 涼太
（京都市立紫野高等学校）
一般社団法人 デジタル人材共創連盟　代表理事　鹿野　利春
Logo に学ぶ会 Neo　会長　山本　恒

第 22 回情報教育合同研究会開催案内（第３報・最終報）

次期学習指導要領改訂の議論が進む中、いよいよ年末には中教審答申、年度末には新学習指導要領の告示が予定されています。今回の学習指導要領の改訂で、小学校 3 年生以上の「総合的な学習の時間」に「情報の領域」が設置され、中学校においては、これまでの「技術・家庭科」に変わり「情報・技術科」が創設されます。

そこで本研究会では、次期教育課程で小中高校の情報教育が「どのように変わるか」について認識を深めるとともに，「その変化をどのように捉えるか」、「その変化は何をもたらすか」、「現場の課題は何か」、「それをどう克服するか」、「何を準備する必要があるか」などについて、参加者の皆様と議論を展開し、情報教育の未来像を共有する場にしたいと考えています。

さて、本研究会は皆さまのご協力で 22 年目を迎えます。今年の研究会も参加者の皆様にとって有意義なものになりますよう、12 共催団体で力を合わせて準備を進めております。

当日ワークショップおよび情報交換会にも奮ってご参加いただきますよう参加申し込みをお願い申し上げます。

記

１．テーマ　　次期学習指導要領で小中高校の情報教育はどのように変わるか

２．日　時　　2026 年 11 月 28 日（土）　10:00～18:00（予定）

３．会　場　　園田学園大学　欅和館（４号館）・情報教育センター（５号館）
兵庫県尼崎市南塚口町７丁目 29－1　TEL 06-6429-9909(情報教育センター直通)

４．共　催
情報コミュニケーション学会情報教育特別委員会
日本情報科教育学会近畿・北陸支部
大阪府高等学校情報教育研究会
氷上情報教育研究会
京都府私立中学高等学校情報科研究会
一般社団法人 デジタル人材共創連盟
教育システム情報学会関西支部
兵庫県高等学校教育研究会情報部会
情報教育学研究会(IEC)
NPO 法人　学習開発研究所
京都市立高等学校教育研究会情報部会
Logo に学ぶ会 Neo

５．後援　兵庫県教育委員会　　尼崎市教育委員会　　園田学園大学　　日本産業技術教育学会

６．日程(予定)

【午前受付】　　(5 号館 4F)　9:30～

【ワークショップ】(複数セッション同時開催) 10:00～12:00

(1) micro:bit と Neopixel による光の 3 原色提示プログラム作成
　運営　稲川　孝司　(大阪公立大学/学習開発研究所)

(2) ピクトグラムに命を吹き込め！ハイパーピクトッチ・ワークショップ
　運営　伊藤　一成（青山学院大学社会情報学部）

(3) Adobe Express を活用したクリエイティブな学び
　運営　竹中　章勝（京都精華大学)･白井　美弥子（兵庫県立伊丹北高等学校）

(4) M5Stick で身近な問題を解決しよう
　運営　鹿野　利春（京都精華大学/一般社団法人 デジタル人材共創連盟）

(5) 生成 AI と JSXGraph を活用したインタラクティブな数学教材の作成
　運営　中村　晃 (金沢工業大学/IEC 情報教育学研究会)
　　江見　圭司 (京朋社/IEC 情報教育学研究会)

【午後受付】　　(4 号館 1F)　11:40～

【コミュニケーションタイム】(4 号館 1F) 12:00～13:50

昼食の合間に名刺交換や企業展示など、参加者や協賛企業・共催団体の皆様がコミュニケーションを交わすくつろぎの時間です。
※企業展示・各団体勧誘ブース、飲食可。昼食は各自でご用意ください。

【全体会】　　14:00～18:00

開会行事　　(4 号館 5F)

1 部　講演　　演題「情報技術ワーキンググループの報告と考察」
14:10～15:20　　講師　萩谷 昌己 先生
東京大学名誉教授　情報処理学会会長
（中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 情報・技術ワーキンググループ主査代理）
文部科学省で議論が進められている次期学習指導要領改訂（今年度末告示予定）につきまして、小・中・高校の情報科教育がどのように新しくなるのか、可能な範囲で具体的にわかりやすくお話しいただく予定です。

----- 休憩・ICT 企業展示コラボレーションタイム (15:20～15:50) (4 号館 1F) -----

２部　パネルディスカッション (4 号館 2F 4201 教室)

15:50～16:40　　テーマ「次期学習指導要領での小中高校の情報教育を考える」
コーディネーター　西野　和典　(太成学院大学)

(1)　小学校「情報の領域」の新設をどう受け止め、どう準備するか
　　片山　貴史　(丹波市立小川小学校)
(2)　中学校「情報・技術科」の課題と展望
　　阿濱　茂樹　(山口大学)
(3)　小中高のより良い情報教育に向けた具体的検討
　　中村　央志　(京都市教育委員会)

次期教育課程で小中高校の情報教育が「どのように変わるか」「その変化をどのように捉えるか」、「その変化は何をもたらすか」、「現場の課題は何か」、「それをどう克服するか」、「何を準備する必要があるか」について、小中高校の現場から、それぞれのお立場でお話しいただきます。

３部　グループディスカッション（4 号館 2F 4201 教室）

16:50～17:50　　※テーマ別のグループに分かれて、ご議論いただき発表をいただきます。

閉会行事　　17:50～18:00

【情報交換会】（5 号館 2F　チャティ）　18:20～20：20

7．参加費　　無料(共催・後援団体会員以外は，資料代 500 円)

8．情報交換会　　会場：　５号館２F「チャティ」、　参加費 5000 円(予定)

9．参加申込　　https://forms.gle/AibjaU82P8ogsM7F9

（または QR コードから申し込みください→）

※ワークショップおよび情報交換会に参加される方は、準備の都合上
11 月 19 日（木）までのお申し込みにご協力ください。

◎お問合せ先：情報教育合同研究会受付（担当　佐藤万寿美）jkgk26@sonoda-u.ac.jp

【ワークショップ詳細】（複数セッション同時開催）10:00～12:00

(1)micro:bit と Neopixel による光の 3 原色提示プログラム作成
運営　稲川　孝司（大阪公立大学/学習開発研究所）

○内容：　色の三原色の混合は小学生のころから体験しているのに対し、情報科で扱う光の三原色の混合は実体験がありません。そこで、光の三原色で発光する NeoPixel LED を使い、micro:bit でプログラムを作成しながら光らせることで、光の三原色を理解するワークショップを行います。
【持ち物】micro:bit、接続ケーブル
【教材費】1,000 円(税込)

○定員：　20 名

(2)ピクトグラムに命を吹き込め！ハイパーピクトッチ・ワークショップ
運営　伊藤一成（青山学院大学）

○内容：　ピクトグラム作成環境「ハイパーピクトッチ」を用いて、人型ピクトグラムに命を吹き込みながら、動きや姿勢、表現を設計する制作活動を体験します。人型ピクトグラムを人型ロボットへとつながる身体表現として位置づけ、プログラミング、情報デザイン、ロボット工学の初歩を横断的に学びます。また、次期学習指導要領を見据え、デザイン思考との接続を意識しながら、生成 AI 時代の情報教育における新しい学習活動の可能性と授業への展開について、参加者のみなさんとともに考えます。あわせて関連するアプリケーション群についても紹介します。

○定員：　15 名

(3)Adobe Express を活用したクリエイティブな学び
運営　竹中　章勝（京都精華大学)・白井　美弥子（兵庫県立伊丹北高等学校）

○内容：　小中高校で無料かつインストール不要で利用できる Web ツールについて、クリエイティブな学びを実現する授業での活用方法を、AI 機能も取り入れながら実際に試します。そのうえで、小中高校それぞれの段階で思考力・判断力・表現力を伸ばす授業について、参加者のみなさんと検討します。

○定員：　30 名

(4)M5Stick で身近な問題を解決しよう

運営　鹿野　利春 （京都精華大学/一般社団法人 デジタル人材共創連盟）

○内容：　ワークショップで使用する M5StickC PLUS2 には、ESP32-PICO-V3-02 を中心に、Wi-Fi、カラー液晶、ボタン、マイク、加速度・ジャイロセンサ、ブザー、赤外線、時計機能、通信機能などが組み込まれています。「IoT 機器を作るための開発用コンピュータ」といってよいでしょう。「センサによるデータ取得→プログラムによる判断→画面や音での通知」という基本を学習した後、学校や社会の困りごとを 1 つ選んでプロトタイプを作成します。使用言語は、ブロック型プログラミング言語の UiFlow2 を予定しています。

○定員：　15 名

(5)生成 AI と JSXGraph を活用したインタラクティブな数学教材の作成

運営　中村　晃 （金沢工業大学/IEC 情報教育学研究会）・江見　圭司 （京朋社/IEC 情報教育学研究会）

○内容：　生成 AI(Gemini)と JSXGraph を活用し、授業ですぐに使えるインタラクティブな数学教材を自分で作成するワークショップです。専門的なプログラミングの知識は不要で、プロンプトを入力するだけで「グラフの平行移動」「単位円と $\sin\theta$ の関係」「コイン投げの度数分布」などの動的なグラフを作成できます。完成したグラフは HTML ファイルとして簡単にダウンロードでき、授業での配布もスムーズです。
【参加要件】Google アカウント(Gemini 利用のため)

○定員：　30 名